

平成23年度第3回生駒市ごみ有料化等検討委員会  
会議録

平成23年5月23日（月）午後1時00分～

市役所 4階 大会議室

【出席委員】 浅利委員長、三木副委員長、藤堂委員、小林委員、藤尾委員、樽井委員、高森委員、石川委員、山田委員、公門委員、奥田委員、濱田委員、横井委員、松本委員

【欠席委員】 中西委員、筒井委員、安原委員、相川委員

【事務局】 森住専門委員  
奥谷生活環境部長、中谷環境事業課長、辻中環境事業課長補佐、大窪事業係長、竹本管理係長、鳴川管理係員

【配布資料】

資料1 質問一覧表

資料2 資料冊子

1 開 会

傍聴者確認4名

事務局：本日はお忙しいところ、第3回ごみ有料化等検討委員会にご出席いただきありがとうございます。配布資料として、委員のみなさまから出して頂きました質問等をまとめたものと、資料冊子とをお配りしております。本日の会議の会議録署名委員につきましては、安原委員が欠席のため高森委員と石川委員にお願いします。

2 案 件

(1) 委員からの質問の紹介及び質問に関する説明

委員長：今日はみなさんからのご質問一覧の確認をさせていただいたあと、スライドを使ってレクチャー的な感じで、共通認識をもっていただけるようにしたいと思います。皆さんの知識の差があると思いますので、それをできるだけ埋めるような形の時間にさせていただきたいと思っております。次回も同じようなかたちでごみ有料化に関する勉強会としたいと思っております。

まず質問を一通り確認させていただきたいと思っております。

～委員長より、配布されている質問一覧の表の見方の説明～

必ずしも生駒市だけではなく、ごみ問題全般に関する話もあります。

まず1番、ごみ問題・ごみ処理全般について知りたいというところで、1番の地域ごとに出るごみの量を知りたいという部分、これは市のほうから回答をいただいていますので、市のほうからちょっとご説明をお願いします。

事務局：地域ごとに出るごみの量ですが、とくに地域ごとのデータ収集のためには車を走らせていませんが、車ごと、パッカー車単位の重量データは作成可能です。

委員長：いまいろいろな自治体でやろうとしている「見える化」ですが、地域ごとにごみの量を把握するということを思うと、今後の課題として非常に重要な指摘かと思えます。2番目も市からのご回答ということで、剪定ごみは市のごみとして出していいかというご質問です。

事務局：住民自ら自分の手で剪定した剪定ごみにつきましては燃えるごみの日に袋に入れて出していただくか、直接清掃リレーセンターに持ち込んでいただければ収集・処理をしております。

委員長：ありがとうございます。次もお願いします。

事務局：まずリサイクルセンターの運営についてですが、現在リサイクルセンターとしての運営はやっておりません。家庭の燃えるごみの収集を清掃センターに直送というかたちで考えておりますので、今後清掃リレーセンターの有効活用を検討するなかで、リサイクルセンターの機能も検討していきたいと考えています。次の事業系ごみの指導は徹底できるのかということですが、現時点では指導できていると言い切れない部分がございます。事業系のごみは市のほうから許可を出している業者がリレーセンターに持ち込むというかたちをとっております。本年10月指定袋制の導入に合わせまして、指導も徹底していきたいと考えております。

委員長：日本に世界の9割程度の焼却炉があるのかということに対する回答ですが、正確には大体8割が日本にあります。一般的には他の国では埋め立てが一般的で、ある意味日本は特殊な国といえるかと思えます。次、6番目は、木や竹のチップ化施設の検討についての回答ということですのでお願いします。

事務局：チップ化につきましては、木・竹その他になると思います。チップ化するときには発生する騒音があり、また木や竹の量が非常に多いので、ストックヤードが必要

になってくると思います。その場所の問題もあり、なかなかチップ化に踏み切れていないというのが現状です。

委員長：次もお願いします。

事務局：次は生ごみリサイクル施設の設置を検討しているか、検討していないならなぜということですが、生ごみにつきましては現在一部の事業所を対象に、し尿リサイクル施設、エコパーク21でリサイクルを行っております。一般家庭を対象に実施するためには生ごみの回収手法の検討、またリサイクル施設等を考えていく必要がございますので、現時点においては事業系の生ごみの一部をし尿処理施設に持ち込んでのリサイクルといったことでとどめております。

委員長：8番です、脱焼却・脱埋め立てを目標とした各地の取り組みの長所・短所を知りたいということで、海外の名前を挙げていただいておりますが、この挙げていただいている部分での調査はまだできておりません。ただ良く似た取り組みという意味では上勝町というところのゼロウェイスト宣言というのがかなり有名ですので、そのあたりのご紹介をあとでしたいと思います。

9番目、欧米がお手本になるという印象が強いですけれども、逆に日本から欧米に発信していることはありますか、ということですが、3Rというのは実は日本から世界に発信し始めた言葉ということで、そういう意味では非常に日本から世界に発信して大きな影響を与えている言葉ですし、日本のリサイクルの評価は非常に高いと思っておりますので、そこはかなり胸を張れるのではないかなと思っております。

10番目、スーパーでのトレイ・ペットボトルの回収は役に立っているか、ごみとして回収した場合とどちらが経済的でしょうか、ということですが、まず役に立っているかどうか、という部分では役に立っていると思います。ただ経済的にはおそらくリサイクルするほうが高くついていると思います。

ここからは私の分ですが、これは今回難しかったので、いずれも6月に可能な限りお見せするというにしたいと思いますが、まず11のほうは可燃性ごみの量について、もう少し詳細に知りたいということで、これは、このご提案いただいている委員とご相談して、データを整理してお見せできればと思っています。10年後の予想についても同じように、次回お見せできるようにしたいと思います。

次、12番のコスト面の把握、これも次回廃棄物会計的なので試算をして、出せるようにと思っています。

ごみ有料化について知りたい点ということで、質問番号としては13からですが、

基本的にはこのあたりからはすべて次回に本格的にご回答をしたいと思いますが、13から16に関しては有料化の捉え方、制度、税金との関係、市民の意識の関係、整理が必要と思います。次回多角的な視点から有料化とはどういうふうに考えられるか、レクチャーをしていただいたあと、議論できるようにしたいと思っています。

17以降です、これは生駒市で有料化するならば、どういう種類のごみを有料化するか、どうにかたちで課金をするか、どういう範囲にするか、どういうふうに決めるのか等、これらは次回他都市の事例を中心にご紹介できればと思っています。

有料化の部分でとくに25番、有料化している自治体は全国の約6割の市ですので、すべてをお見せするよりも、たとえば生駒市周辺自治体とか、同じ人口規模のところでみなさんご存知のような自治体等の紹介ができるかと思っていますので、これも次回にさせていただきたいと思っています。

それから36、37あたりがこれも有料化であったり、ごみ問題全体とリンクすると思いますけれども、まず36はリサイクルを含めて、ごみからの商品化をはかったらどうかということで、これは先ほどのチップ化とか、生ごみの堆肥化とかとも似ている部分になるかもしれませんが、単にごみの商品化を図ったらもうかるというものでもなく、それ自体にお金がかかりますし、どういう出口を考えるかというところもポイントかと思っています

今日ご説明するなかでは、この3R低炭素社会検定という公式テキストを出していきまして、ここに基本的な話、けっこう網羅的に書いていますので、ちょっと回覧させていただきたいです。

39番目、委員会の目的等々の確認等ということで、有料化に関する検討であることは、それが一番の焦点にはなってくると思います。その目的自体がごみ減量であったり、財源というか新しいごみ減量のなかでのひとつの重要な制度として検討するというところで、密接に関連はしております

40番目です、委員間で交流を図りたいということですが、事務局等で一括しての公開というのは個人情報との関係でも難しい、基本的には個人間でやっていただくということがいいのかなと思う。

これからスライドを使わせていただいて、補足的に今の部分も含めてご説明をして、そのあと質疑等受けたいと思います。

パワーポイントに基づき次の内容を詳細に説明。

- (1) 日本のごみ排出と処理の実態
  - ①焼却大国としての日本

- ②ごみの内訳について
- ③食品の期限表示の問題
- ④ごみの「かさ」を減らす必要性
- ⑤京都大学におけるレジ袋削減プロジェクト
- ⑥「ごみ」から見た「暮らし（人）」

(2)ごみ処理の限界と 3R (2R)

- ①エコロジカルフットプリントについて
- ②最終処分場の残余容量と残余年数の推移
- ③3R について
- ④日本が発信する 3R
- ⑤3R イニシアティブの 5つの課題
- ⑥リサイクルの種類、成立条件
- ⑦リサイクルとコスト、EPR、2R について

(3)いくつかの事例

- ①上勝町のゼロウェイスト宣言
- ②海外の資源・有害ごみ回収拠点

(4)市民意識と行動

- ①3R の認知についてのアンケート結果
- ②「3R リーダー」の潜在性について
- ③ごみ問題（減量）に関する意識・行動

～大震災の被災地のごみについての説明～

委員長：ごみ全般に関しての部分で何かご質問等あれば、何でも結構です。

委員：委員会では一番大事なことはやはり、ごみ処理に対する、8 番の脱焼却・脱埋め立てですが、ごみの処理に対して委員会としてはどんなビジョン・理念をもつかという、少なくともこの委員会では検討すべきだと思う。

委員長：ありがとうございます。

委員：私は二酸化炭素が地球温暖化の元凶じゃないよというような確信を抱くようになりました。IPCC でデータの偽造、捏造があったと雑誌で読んだ。結局ごみを圧縮する一つの大きな目的の温暖化、環境問題と、それから資源問題、この二つでいくのか、あくまでも資源問題だということに絞って、これからはやっていくべきだと思います。

委員長：ありがとうございます。他ありますか。

委員：この間ごみからの商品化やリサイクルといいましたけども、やはりリデュースが中心になると思います。最近買い物しても、やはり生産者責任があるのか、パックが少なくなって、単にビニールの袋になっている企業が努力しているのも散見されるようになりました。

ある地方自治体では有料化になって、それを値段があまりにも高くなったので、今度有料化の値段を安くしてほしいと、そうすると数万人の署名活動をしてもらえなかった。だから一度決まると変更がむずかしいと思う。

山陰の市へ生駒市の市議会がすでにごみ問題で研修に行かれていた。議会の方が何を政務調査して何を得たのか明らかにしてほしいと思います。

委員長：ありがとうございます。今後の考え方というところで今日は締めさせていただきます。

委員長：脱焼却を含めたごみ処理のビジョンがあるのではないかというようなご意見ですが、確かにプラごみと生ごみをとったら、ほとんどもう残らないと私も認識をしています。そして、焼却炉が減っていく方向に日本全体としてもいくし、いくべきではないかという考え方は持っております。アジアの埋立地なんかに行ったら思いますけども、かなり衛生的な管理をしていくというのは非常に大変です。さきほどの地球温暖化、CO<sub>2</sub>関連ですがひとまずここでは直接触れず、またいつか議論したいと思います。

事務局を通して、市長にも温暖化より資源節約だというふうに言っておいていただきたいと思います。

委員：ちょっと訂正をお願いしたい。議員の方を批判したわけではありません。批判めいたことを言いましたけども。

専門委員：どこの市会議員の方々も、批判を受けています。政務調査費というお金に値する活動をしているのかしてないのかという議論はあります。

委員長：有料化の長所短所それぞれあると思います、それらは次回にさせていただきたいと思います。

委員長：日程調整しだいでどこか実際に来ていただいて、話していただくということもあり

えるかなと思います。

委員：なぜ環境省が現在手数料としてとりなさいということになっているのか、一方では税金でごみの処理というのは環境省自体認めているのです。環境省は、ごみ収集について特定の人に対してメリットを与えることであるから、手数料でとりなさいというのは全く納得できません。

委員長：なかなかここにおられる方は意識が高いですが、何年くらいかけて、他の方々を含めて全体を本当に減らすというふうにもっていくのか、有料化するのかしないのかを含めて、ぜひ真剣に考えていただければと思います。

委員：啓発が非常に大事だと思います。皆さんいろいろと知っていることのレベルが違います。そういうことも理解して検討しないといけない。有料化しないとごみが減らないというのはちょっと乱暴すぎる論理だと思います。

委員長：有料化しなくても自分たちで減らすよという宣言もあると思います。

委員：市は環境省からの有料化の手引きに基づいて線を引いているのです、手引書読んで本当に腹立ってきました。そういう意味においては市町村も気の毒です。

委員長：目からウロコな部分もありますので、柔軟に受け止めていただきたいです。

委員：上勝町の成功例というのはあまりにも持ち上げすぎで、人口 2000 人のところの事例は話にならないと思います。

委員長：そういう意味ではなかなか脱焼却、脱埋め立てというのは一気にはいけないというのは逆に見ていただいたつもりなのです。リサイクル率 70%以上というのはやはり大体そういう人口規模のところだけです。

委員：10 万を超える市町村では多様性が多いですから。

委員：結論はまた市なり行政が出すわけですか。

委員長：いいえ。基本的にはこのなかです。

委員長：皆さんのレベルを合わせてみんなで議論しようという意味で、勉強会的な、非常

に頻度も高いですので、ちょっとイレギュラーな運営をしているという感じが  
す。

委員長：京都の場合は有料化財源ができて、それによって先ほどの地域ごとのきめ細やかな活動のお金にあてているとか、次の世代に向けた取り組みとかが出てきているという場面もあります。ファンドになっていって災害に対応できるという場面もあります。来週は頭を空にして、有料化をもう一度ゼロから考えるつもりで、お願いできればと思っています。ありがとうございます。

### 3 閉 会

事務局：長時間にわたりましてありがとうございました。次回、第4回の会議は、6月27日(月)3時からということでまたよろしくお願ひしたいと思ひますので。本日はありがとうございました。

一同：ありがとうございました。



この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人はこれを署名する。

平成 年 月 日

議事録署名人

議事録署名人